

ACKU179回例会“秋の里山（能勢蓑庵）報告”

☆日時；2014年10月18日（土）～19日（日）

☆参加者；金井健二、井上達男、和光広典、居谷千春、山田健（18日夜のみ）、高田和三

☆会費（一泊3食）；4000円

和光さん運営の“蓑庵”をベースに1泊2日の秋の里山歴史探訪と近場の山歩きを楽しんだ。甲南山岳会の武田前会長が顔を出され旧交を温めた。晴天の中、タププリ里山と山歩きを堪能しました。18日夜は“鍋を囲み”山談義を楽しみました。阪神タイガースが、巨人を倒し、日本シリーズに進出した事も団欒を盛り上げました。

企画と「もてなし」をしていただいた和光さんに感謝します。

記録報告

☆18日昼；蓑庵集合。甲南山岳会の武田さんを混ぜえ昼食。歴史探訪（田尻・野間地区）3時間コース。

名月姫墓所～原林神社～信田の森（安倍保名）～岩崎神社（安徳天皇墓所）～松王童子の墓～山空海温泉入浴。蓑庵に戻り鍋をつつき、山談義が深夜まで続いた。山田副会長は食事後帰神。

* 能勢公式ガイドの和光さんから丁寧な説明を頂いた。平家にまつわる歴史がたくさんある。彼の豊富な知識と、能勢の村おこしにかける“心”を知った。

* 地元で作っている“豆腐”や自家製の野菜のヘルシー鍋を満喫した。

* いつもの聞き上手な井上会長が、いつに無く“能弁”であった。中国をパートナーにする、今度の創部100年記念「海外登山」の苦勞が推察された。

☆19日；山歩き3山、城山（433m）、行者山（469m）～剣尾山（784m）～横尾山（785m）。能勢温泉入浴～蓑庵（土産を貰って）立ち寄り後解散。

* 城山は若干の藪こぎはあったが、山城のあとが残っている、戦国時代の歴史が偲ばれた。

* 行者山、剣尾山、横尾山のラウンドは山道の整備も良く、登山客も多く、天気に恵まれ、山歩きを楽しめた。能勢温泉（能勢の郷）で汗を流した。

* 和光さんから手作りの新米・もち米と栗を頂いた（女房に慶ばれた）。

以上高田和三

+++++

◇時間記録など

2014年10月19日

8:55 月峯寺北の住宅奥の350mParking

和光君のX-trailに5人が乗って出発。和光君の話ではこの住宅は正式な認可もなく開発されたらしく、一番上のログハウスらしきものには水道がないらしい。階段も朽ちていた。その裏手から藪に突入した。すぐに稜線に出ると松や雑木の尾根道に踏み跡が残っていた。適当にブッシュを刈り取りながら進むと城山東の主稜線に出た。なんと

立派な木の階段(木段)で整備された登山道があった。拍子抜けだが、能勢の観光ガイドである和光君にとっては新たな名所としてこの城山を語る事が出来そうだ。散策道がどこから登っているのか。それ

は和光君の宿題だ。

9:23-9:32 808 能勢富士頂上(城跡)

木段を辿って空堀を越え山頂に到達。南の城跡は二の丸だろうか。石垣もはっきり残っている。北の最高点に行くと広々とした頂上広場に出た。三又になったクヌギの下で写真。

9:39 三角点 428.0m のある南の城跡

こちらも広々としている。この山は麓から見ると二こぶの富士山だ。

10:06 下山。 鹿の群がみちを横断した。

続いて 剣尾山 754m に向かう。

10:25 能勢温泉の駐車場出発

谷向こうにあるキャンプ場を抜けてゆけば行者口の登山道にすぐに出られるのだが、「キャンプ場を通過することならぬ、入場料 600 円払え、登山者は登山口に回れ」と言う張り紙があちこちに張ってあった。キャンプも登山も温泉も仲良くできるようにすればもっと顧客が増えるだろうに。島国根性丸出しの措置だ。温泉の駐車場にも登山者お断りの看板があった。下山後に風呂に入るので気にせず駐車した。

11:00 行者口登山口

左ににぎやかなキャンプ場を見ながら登山口に登る。トイレがある。

11:25-11:45 809 行者山 469m

岩場が続いて出てくる。大日岩は大日如来が祀ってある。オーバーハングしていた。胎内くぐり岩やらのぞき岩など出てくる。20m 程の垂壁にはハーケン、ボルトが残置されていたので岩登りする人もいるのか。岩場の根元にお堂がある。居谷君はロープを伝って役の行者の足跡をたどっていた。頂上にて金井さんを待つ。行者山の登りは金井殺しの坂だと言いながら登った。

12:25 月峯寺跡

登山道が東から合流する少し手前に六地藏があった。寺は鎌倉時代に建立されたものらしい。月峯寺は朝一番に登った城山の麓に移転されている。鎌倉時代は山岳仏教が盛んだった時代だ。

12:35-13:54 剣尾山 754m

天気良し。大きな岩(前回登った時の記録ではクジラの背中のような岩と表現されていた。そこで昼食。そのあと金井健二さんが到着するまで 1 時間強、ゆっくり昼休み。うたたね昼寝を楽しんだ。

14:55-15:06 横尾山

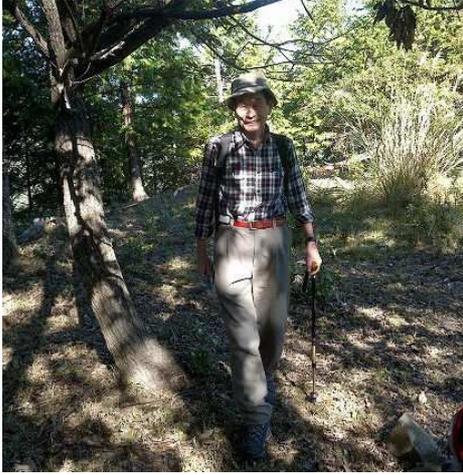
山頂手前の藪に入って雉打ち。 鹿が近くで啼いた。居谷君もどこかで雉打ちだったらしい。雉打ちのおかげで横尾山での金井さんの待ち時間は 10 分程度で済んだ。

GPS Oregon 650 は電池の消耗が激しい。横尾山の下りで電池切れになってしまった。写真を沢山取る場合は予備バッテリーを忘れてはならない。

16:50 下山

「日帰りの入浴時間終了」の看板が出されていたが、高田和三さんがフロントで掛け合うと OK が出た。「能勢温泉」でゆっくり体をほぐした。蓑庵に帰って和光さんに沢山のお土産を頂いて解散。

記録 井上達男



城山頂上・金井



剣尾山 754m 山頂の大岩・居谷、高田



剣尾山大岩・和光



横尾山頂上・和光、高田



剣尾山 754m



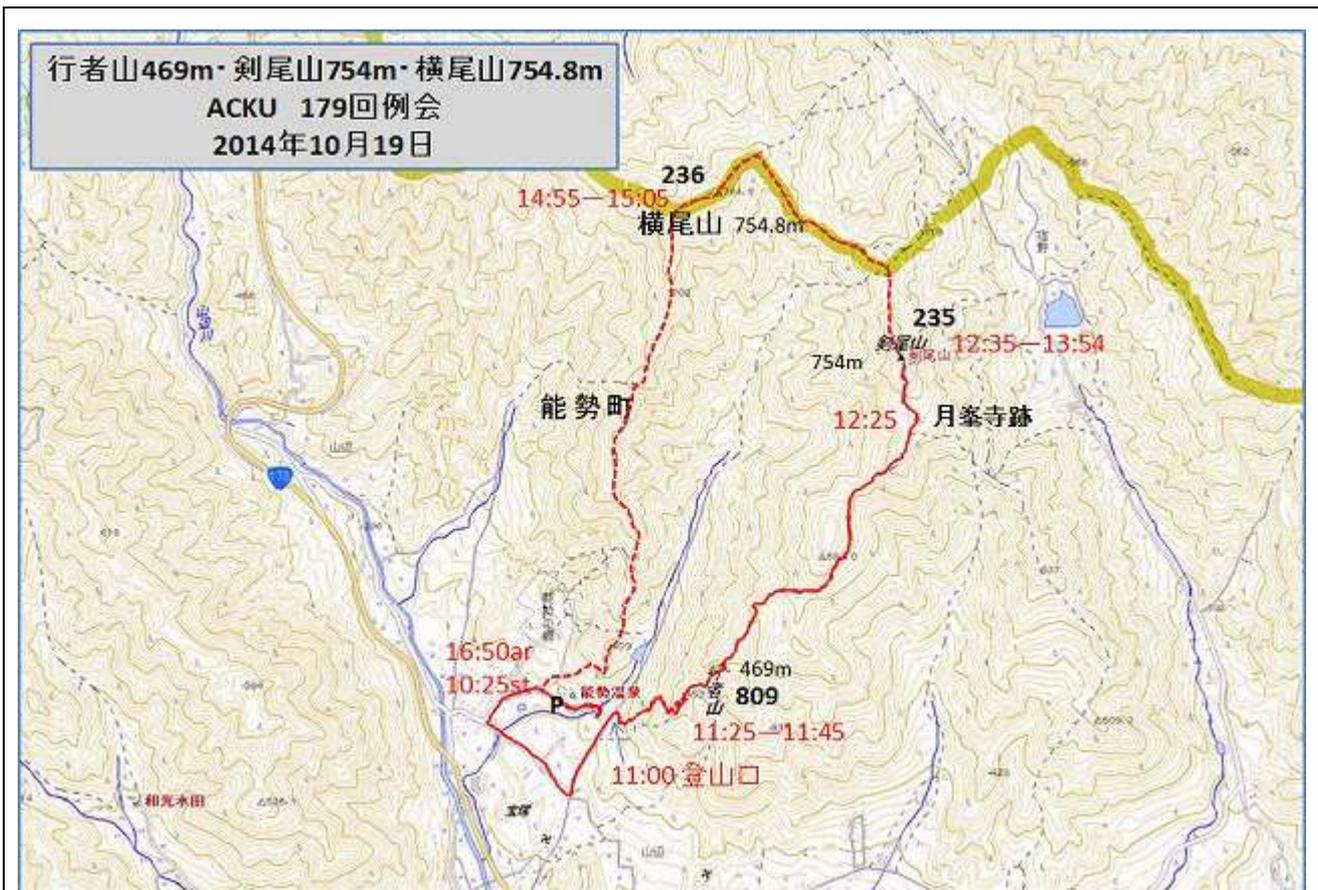
横尾山 755m



能勢富士 433m



能勢の公式ガイド資格を取得した和光さん、城山には道がないと認識されていたが、行ってみると東尾根に立派な木段のある登山道があった。古くてあまり利用されていない様子だった。月峯寺の奥から藪漕ぎを楽しみにしていた井上(鉈、鋸を腰にしていた)はがっかり。和光さん、少し調査と整備をやって新たな能勢の名所案内スポットにしてください。



剣尾山 754m と横尾山の間から南に下る谷筋に地形図には登山道が記載されている。下りはこれを伝うつもりで谷の降り口を探したが、踏み跡はなかった。猪のヌタ場が生々しく泥水をためているだけだった。横尾山側のコルからの下りを居谷さんが探したがやっぱり道はなかった。

+++++

井上は 剣尾山に家族と登ったはずと思っていたが記憶が定かでなかった。帰宅して記録を探したら。1990年1月14日に家族4人で今日のコースを辿って 剣尾山と横尾山に登っていた。行者山の記憶がないので行者口からすこし谷筋を遡って送電線鉄塔のあるあるピークあたりに枝尾根に登ったようだ。24年も月日が経つと山の植生もすっかり変わったようだ。記録には横尾山の登りで「雪が少し積もった背丈に近い笹を掻き分けて登り、子供たちのブーイング激し」とある。今回笹は膝丈ぐらいだった。鹿が食べつくした後に笹が伸び始めているのだろうか。樹木も大きくなっていた。 剣尾山頂上の「くじらの背中のような岩」と記録にあるのが記憶を取り戻すトリガーだった。山も変化するのだ。

つぶやき 井上達男